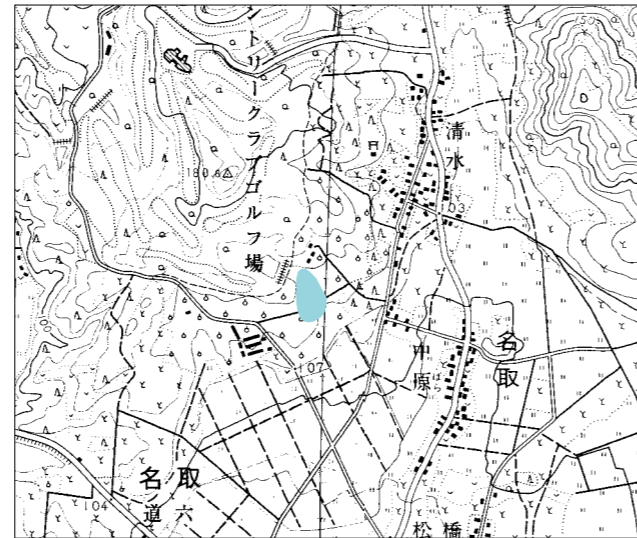


経塚森遺跡発掘調査説明会資料

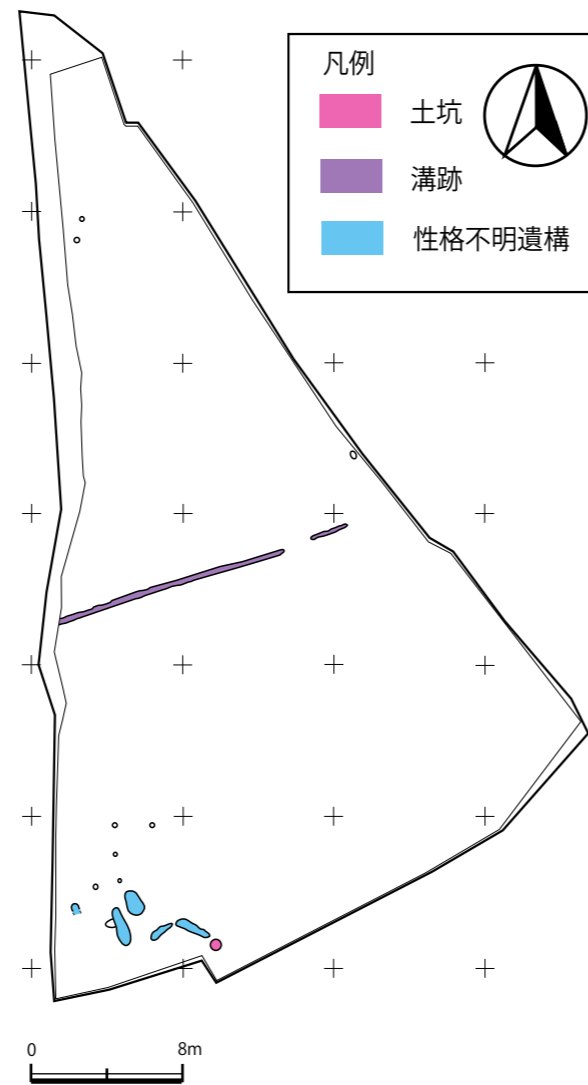
(財) 山形県埋蔵文化財センター 2010年10月24日(日)

調査要項

遺跡名	経塚森遺跡(きょうづかもりいせき)	
遺跡番号	平成11年度登録	
所在地	村山市大字名取字経塚森	
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所	
調査原因	東北中央自動車道(東根~尾花沢)	
現地調査	平成22年5月17日~11月30日	
調査面積	3,120平方メートル	
遺跡種別	集落跡	
時代	平安時代	
遺構	溝跡・土坑・ピット(小穴)	
遺物	土師器・須恵器・金属製品	
調査担当者	調査課長	阿部明彦
	課長補佐	伊藤邦弘
	専門調査研究員	氏家信行
	調査研究員	三浦勝美(調査主任) 大場正善
調査員	安部将平	
調査指導	山形県教育庁文化財保護推進課	
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社 山形工事事務所・村山市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所	



遺跡位置図 (1/25,000)



経塚森遺跡 1区遺構配置図

1 調査の概要

経塚森遺跡は、村山市役所より北西約3km、さくらんぼカントリークラブゴルフ場南部の丘陵に立地します。今回、東北中央自動車道(東根~尾花沢)名取地区の発掘調査の一環として、約3,120㎡の範囲を調査しました。調査区は、北側から1区と2区を設定しました。1区は調査完了後に埋め戻し、現在は2区を調査中です。

2 見つかった遺構と遺物

1区で見つかった遺構には、土坑、溝跡、ピット、性格不明遺構があります。

この中で、性格不明遺構は、人為的な掘り込みではなく、木根の跡等の可能性も考えられます。

溝跡は、南西-北東方向に、長さ約12mと約2mのものがみつかり、同一の遺構と考えられます。埋土から土師器片が見つかりました。

1区で見つかった遺物には、ロクロでつくられた土器があり、平安時代のものと考えられます。しかし、遺構内部から見つかったものではなく、耕作土である表土層や、その下の黒色土層から見つかったものです。おそらく、西側の丘陵から流れてきたものではないかと考えられます。

3 まとめ

調査が完了した1区からは、予想していた平安時代の人々の活動痕跡が、明確には残されていませんでした。しかし、近接する西側の清水(しず)遺跡では、平安時代の遺構や土器が見つかることから、これらの地域では、平安時代に多くの場所に人々が生活していたようです。今回の調査は遺跡範囲の東側であり、集落の中心は西側の丘陵地である可能性も考えられます。



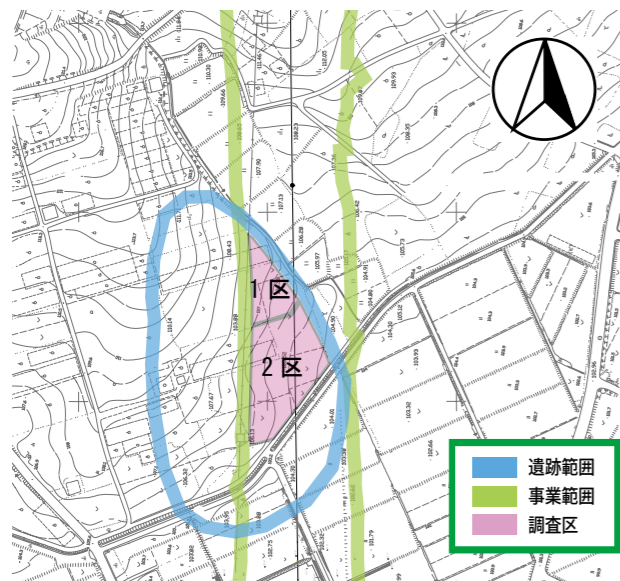
1区から見つかった遺物



遺跡遠景 (南より)



調査の様子



経塚森遺跡 調査計画図 (1/4,000)



溝跡 (東より)